

村山鋼材 創立70周年

大手コイルセンターの村山鋼材（本社千葉県浦安市、村山和雄社長）はきょう20日付で創立70周年を迎えた。国内最大級、東日本では唯一の板厚25ミリの加工できる大型レベラーラインを有し、サプライチェーンに不可欠な存在として、幅広い産業に高品質の鋼板を供給する役割を果たしてきた。全国コイルセンター工業組合の初代理事長を務めた創業者・村山文雄氏の時代から業界全体の発展に尽力し、社会貢献も強く意識した経営で、さまざまな取り組みを実践している。村山社長と村山雄星執行役員に70年の歩みや今後の課題などを聞いた。



村山雄星執行役員 村山和雄社長

返ると。

村山社長「1958年に富士製鉄（現日本製鉄）の指定シャリリ工場となり、59年に三菱商事の特約店、60年に日本鋼管（現JFEスチール）の指定工場となった。58年は業界初の広幅レベラーを導入した年で、当社のコイルセンターとしての出発点にあたる」

——節目を迎えた思いを。

村山社長「先代が前身の村山鋼材シャリリ工場を設立して今年で70周年。苦難の時代に事業を興した創業者の苦労を思い、受け継いだ企業を守り抜く『守成』の精神を忘れないようにしたい。長年のお取引先をはじめ、関係者の皆さま、会社の基盤を築いてくれた先人たち、社員には深く感謝申し上げます」

——節目を迎えた思いを。

——会社の歴史を振り返ると。

て、これを自社で加工できないかと考えた。2日ばかりで製鉄所にあつたレベラーをスケッチし、東京に戻って機械メーカーに造らせ、それがコイルセンターとしては第一号の広幅レベラーとなった」

現在、浦安工場で稼働する大型レベラー「ジャンボ・カッター」

断したりすると、残留していた内部応力によってひずみが表面化する。当社は塑性調整などの特殊技術の開発に取り組み、平坦度の優れた高品質鋼板の供給を可能にした。それがJCLだ。1号機は74年に東京工場で稼働を開始し、2012年に浦安工場移設と大幅リニューアルを実施した」

独自技術で高品質鋼板

工場となった。58年は業界初の広幅レベラーを導入した年で、当社のコイルセンターとしての出発点にあたる」

イング・ライン（JCL）は国内最大級の設備仕様に加え、優れた平坦度をひずみの少ない鋼板を供給できることでも高い評価を得ている。

村山社長「ホットコイルはレベラー加工で平坦度を矯正するが、次工程でガスやレーザで熱を加えたり、切

08年のリーマン・ショック以降は同業の藤澤鋼板（藤澤鐵雄社長）との協業、神奈川や西東京への営業所開設、太陽光発電事業開始など、事業基盤をより強固なものとしてきた。

太陽光・グリーン鋼材でCN貢献

——次の10年に向けて、新たな時代への対応が鍵となる。

村山執行役員「SDGsに向けて当社も動き出し、7月から東京都中小企業振興公社のSDGs経営アドバイザーの指導を受けながら優先課題を整理している。グリーン鋼材の提供を目標の一つとし、来年3月までに数値目標などを固める。また、14年から茨城県牛久中市で手掛ける年間発電量100万キロワットの太陽光発電もカーボンニュートラルに貢献している」

デジタル化に着手している。今後は工場や倉庫でのIoT、ARの活用などを検討したい」

——今後の課題や注力ポイント。

村山社長「個々のレベルアップが会社の成長に直結する考え、引き続き人材育成に注力する。外部セミナーへの参加やジョブローテーションを推進しているほか、大学などへの進学支援として年間100万円まで補助する制度も設けた。顧客の高度な要求にこたえるため、加工技術の開発や潜在需要の研究に取り組む、他社との差別化を図る。鉄鋼メーカーの製造ライン再編に伴う厚板生産能力の縮小を見据え、JCLの厚板代替機能のアップも強化している。中長期的には浦安工場の月間加工量2万トン達成に向けた基盤整備を行っていく」

（音成 泰文）

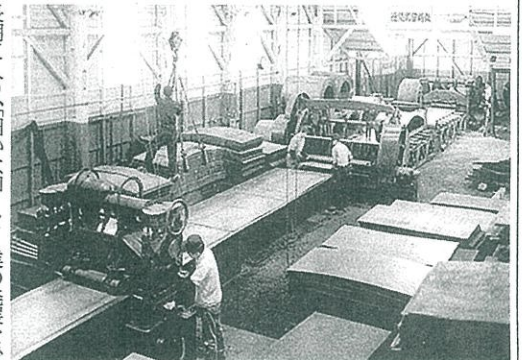
日刊産業新聞 22・10・20

進取果敢の創業精神

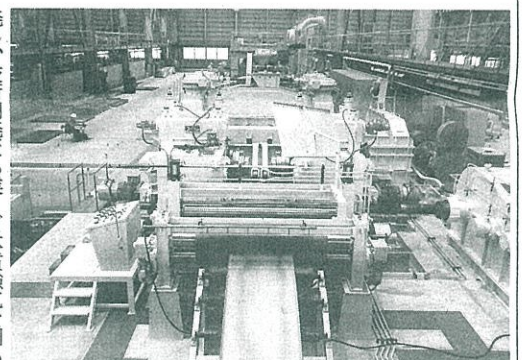
村山鋼材70年の歩みと展望

創立70周年を迎えた村山鋼材（本社千葉県浦安市、村山和雄社長）は会社の創成期から業界初の広幅レベラーライン導入をはじめ、世界初となるホットコイルのショットプラスト・スキンプラスラインや厚板のショット・プライマー（塗装）ラインの開発など、コイルセンターの枠にとられない独創的な取り組みで未来を切り拓いてきた。その後も日本を自負する平坦度矯正技術（特許取得済み）の確立や加工後のひずみが少ない「レベラー切断用鋼板」の商品化などを実現。常に新しいことに挑戦する創業精神は脈々と受け継がれている。同社の今日までの歩みを振り返る。

く、メーカーが外部に加工させることもなかった。そこで文雄氏は北海道の晩秋の雪も降り積もる寒さの中、2日ばかりで製鉄所のレベラーをスケッチし、それを基に独力で本格的な広幅レベラーを完成させ、翌58年12月に東京工場へ設置した。



業界初の広幅レベラーライン



現在のジャンボ・カッティング・ライン1号機

の後の針路にも変化をもたらし、浦安工場への集約や藤澤鋼板との協業、牛久での太陽光発電事業につながっていった。

同社は創立60周年時に企業理念を刷新し、新たに「創造」「品質」「成長」の3つを掲げた。このうち「成長」は英語表記を「Sustainable」(持続可能性)とし、10年前から持続可能な成長を目指すことを明確にしている。

創業者の村山文雄氏は新潟県松之山村（現十日町市）に二男として生まれ、尋常小学校を出て12歳で上京した。1942年に大田区森ヶ崎で鉄鋼商を開業したが、その後39年と45年の2度、徴兵を経験している。戦後は高い再開し、52年に村山鋼材シャリーング（現村山鋼材）をえが浮かんだ。

設立した。飛躍のきっかけとなったのは57年、富士製鉄（現日本製鉄）室蘭製鉄所の熱延ラインを見学に訪れた時のこと。製鉄所に発生品が山積みされているのを目にした文雄氏は、これを引き取ることで高額のレベラーで行われていた。民間企業のビジネスモデルを堂々と確立。日本が高度成長の

長期に入り、細かな加工はメーカーでは効率が悪く不採算となり、この広幅レベラー設置を機に村山鋼材は成

発し、技術開発でも業界をリードした。事業は順風満帆だったが、実はこの時期に後継者だった長男・敏雄氏享年26歳を業務上の事故で亡くしている。実兄を失った村山社長も「先代の無念は計り知れないものがある」と振り返る。新工場建設を計画。茨城県牛久市に用地の取得を済ませた。

独創性で持続的成長へ

高額のレベラーで行われていた。民間企業のビジネスモデルを堂々と確立。日本が高度成長の

の小口注文にも対応できる（同）として、時代の要請もコイルセンター

長を加速させ、富士製鉄や日本鋼管の指定工場、三菱商事の指定特約店となる。65年にコイルショットプラスト・スキンプラスライン、72年に厚板ショット・プライマーラインを開

も創立50周年だった2002年に厚板加工部門の羽田スチールセンターを吸収合併するな

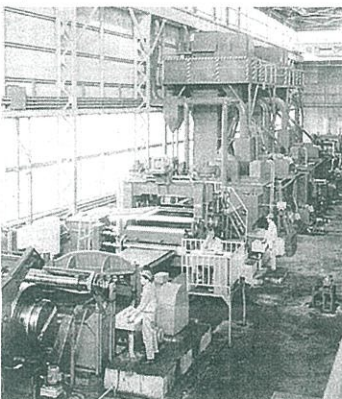
好景気が果たして続くのだろうか」と異変を感じ取った村山社長は計画実行を少し遅らせ、しばし様子を見ることに。直後にリーマン・ショックが発生し、コイルセンター業界も稼働率の急激に見舞われた。当時の決断は間一髪で過剰投資の難を逃れただけでなく、そ

多大な強化を図る局面もあったが、中国ハブで鉄鋼需要が再び増加に転じると、厚板代替ニーズも相まって同社のレベラーは過去にないほどのフル稼働に達した。同社は顧客からの要望にも応える形

100年企業という大きな目標に向かって、まずは次の節目となる80周年へ「できることを一つずつ積み上げていく」と村山社長。次の10年も持ち前の独創性で村山ブランドに一層の磨きをかけ、新たな加工技術の開発に挑み、持続的な成長を目指す。

沿革

- 1942年 3月 個人商として創業（東京都大田区森ヶ崎）
- 52年 10月 村山鋼材シャリーング(株)設立（村山鋼材(株)の前身）
- 58年 5月 東京第一工場開設
- 65年 6月 世界初のコイルショットプラスト・スキンプラスライン開発
- 72年 6月 東京第二工場開設（東京工場）
- 73年 12月 商号を村山鋼材株式会社に変更
- 74年 7月 東京工場のジャンボ・カッティング・ライン操業開始
- 81年 9月 全国コイルセンター工業組合設立初代理事長に村山文雄氏が就任
- 85年 11月 村山文雄氏が藍綬褒章を受章
- 89年 10月 千葉県浦安市に浦安工場を開設
- 90年 11月 村山文雄氏が勲四等瑞章を受章
- 91年 6月 浦安営業倉庫開設
- 09年 1月 エコアクション21認証登録を取得
- 11年 12月 藤澤鋼板と設備集約し、協業締結
- 12年 6月 JCL-1を浦安工場へ移設し、東京工場を閉鎖
- 12年 12月 三幸金属工業所と事業継続計画（BCP）の一環として相互委託加工の業務提携を締結
- 13年 2月 管理部門を浦安へ移転
- 10月 茨城県牛久市へ太陽光発電所を開設
- 17年 12月 地域未来牽引企業に選定
- 19年 8月 船橋倉庫、契約満了につき閉鎖
- 20年 4月 薄板営業部、事務所ビル改築工事完工。敷地内駐車場に電気自動車充電設備設置
- 9月 北関東営業所、設置目的達成につき閉鎖
- 21年 12月 自社HPに「バーチャル工場見学」コンテンツ公開
- 22年 5月 健康企業「銀の認定」宣言
SDGs推進委員会発足
- 6月 飲酒運転根絶宣言事業所に登録



草創期を支えたコイルショットプラスト・スキンプラスライン